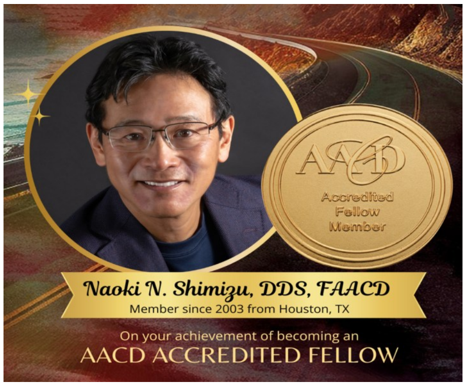
Dr. Ned Shimizu の気ままなフォトアルバム 39

冒険する歯科医

“冒険とは生きて帰ること“という言葉を残した日本の偉大な冒険家・植村直己。彼の最後の冒険となった、マッキンリー冬季単独登頂の直前に泊まった宿にぼーっと座って、彼の笑っている写真を見ている。外は氷点下20度近い。2024年12月も終わりだ。私も今年は2つの大冒険を終えた。まだ生きている。植村直己のマッキンリーから40年、すでにもう冒険すべき未踏の場所はほぼない。しかし私の中での冒険とは、もっと私的なものと思っている。つまり自分にとって、未踏であれば、そして自力でそれをやり遂げれば何でも冒険だ。冒険にはワクワクする響きがある。子供のころから川口浩探検隊、洞窟探検、ワンゲル、ダイビング、カヤック、スタートレック等冒険は常に身近にあった。その延長でアメリカの歯医者にもなった。

このガルフストリームの2021年6月号にも書いたが、ここヒューストンでは、淡水魚でアメリカ第2の大きさを誇る、巨大怪魚アリゲーターガーが釣れる(最近では日本でもちょろちょろ釣れているが、外来種だ)。初めて釣り上げるのに、手探りでトライしたため8か月かかった。その分釣れた時の感動は大きかった。その後も1年に1匹釣れるか釣れないかだ。いつかは自分で釣ったガーを食べてみたいという気持ちが少しずつ自分の中で大きくなる。たまたまオースティンのプロカメラマン兼インフルエンサーからガイドの依頼があり、テント・カヤックでの、トリニティーリバー冒険ツアーを企画した。いつものメンバーも含め5人、全員何か得意技を持った、日本人特殊部隊である。なんと今回は3日でいっきに4匹も釣り上げた。本当に次から次へと釣れた。初めての出来事だ。いいサイズのが釣れると、キャンプをセットアップする者、火を起こす者、まだ釣ろうとする者、カメラやドローンを飛ばす者、あの巨大ガーを締める者、さばく者、酒を飲む者、調理する者。まとまりはないが、各自勝手に適当にどんどん進んでいく。私はほぼ見ているだけ。あっという間にアリゲーターガーは、松茸吸い物の具になり、焚火を囲んでのテキサス野外日本懐石料理になる。自分としては、設備も何もない場所でのアウトドアのガイドをして、大物を釣り、さらに食べるところまで完成させることができた。まさにアウトドア好き、釣り好きには夢のような企画の成功である。よりテキサスの自然を身近に感じられるようになった大冒険であった。

もう一つは全く種類の違う冒険であるが、13年の挑戦がついに成功した。世界でも85人目、テキサスでも3人、日本人では初めての、アメリカ審美歯科学会(AACD)の最高ランクのAccredited Fellowの試験をパスした。これはいかに自然に見えるスマイルをインプラントや、クラウン、ベニアやコンポジットで作ることができるか示す試験で、50ケース分の写真を提出し、45ケースパスしないといけない。パスする基準がものすごく高く、ただ自然にわからないように入っているだけではだめで、求められるのはパーフェクトだ。無数にあるケースから、400ケースを絞り込み、その中から、50ケースを提出した。協力してもらった患者さんには感謝しかありません。ありがとうございました。これなどは、実際に未踏の領域への冒険である。ちなみにこのフォーマルな写真、私が撮ったセルフィーだ。なんとヘアーカットからセットまで自分でやってみた。でもまあ、写真屋さんや美容院への転職は考えていない(笑)。

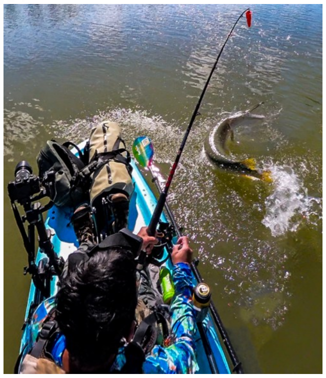


一つの冒険が終わると、それを元にして、次のステップアップした冒険の案が生まれてくるものだ。つまりここまでできたから次はこれができるだろうという、根拠のある自信につながる。今年からは歯医者とアウトドア、“冒険する歯科医”として、さらに新しい冒険を始めていこうと思う。

今回のアリゲーターガーのYouTube動画は、“冒険する歯科医”のチャンネルで見られます。チャンネル登録、よろしくお願いします。

インスタグラムの方はこちらをクリックです。 両方面白いのでぜひ見てください。

(清水直樹)



TEXAS KANKOU